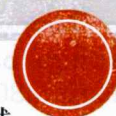


政治家としての 石橋湛山

2025年6月3日 於立正大学
立正大学法学部教授 早川誠



立正大学と石橋湛山

- 石橋湛山、立正大学学長（1952－1968）

それ以前に



- 杉田湛誓（日布）、実父、昌福寺住職、
日蓮宗大学学長（1914－1916）

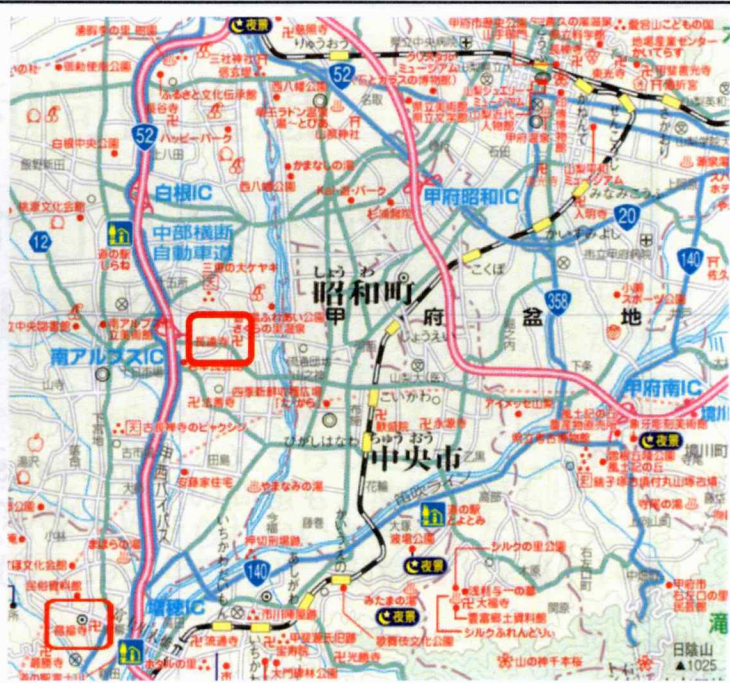


- ← ■ 望月日謙、長遠寺住職、
立正大学学長（1931－1932）



昌福寺と 長遠寺

- 山梨観光ガイドマップ（観光パンフレット）から
<https://www.yamanashi-kankou.jp/pamphlet/>
- https://www.yamanashi-kankou.jp/pamphlet/documents/202303_all_guide_2.pdf
- 公益社団法人やまなし観光推進機構
HP掲載の地図を加工して利用



政界への進出

- 戦前：大震災後、1924年から4年間鎌倉町会議員。別荘所有者代表。
- 戦後：政治家は人材不足／経済政策への意見

「当時一般の世論は、はなはだ悲観的で、インフレ必至と見るものが圧倒的に多かった。また食糧の不足で、非常に多数の餓死者が現れる危険があるというような放送が政府筋から行われた。・・・私は、このインフレ必至論に対しては、終戦直後から反対した。戦後の日本の経済で恐るべきは、むしろインフレではなく、生産が止まり、多量の失業者を発生するデフレ的傾向である。」（『湛山回想』岩波文庫、328頁）



大蔵大臣と公職追放

- 1946年4月の第22回衆院選出馬（大選挙区／東京第二区）、落選。
- 第一次吉田内閣で大蔵大臣に就任。積極財政推進。
石炭増産（政府からの補助金や復興金融金庫からの融資）。
農地改革や六・三制導入には、財政面から批判的。
- 1947年公職追放に。



追放解除と大学長就任

- 1951年に追放解除。政令諮問委員会委員などを務める。
- 1952年12月1日に立正大学学長就任。
空襲で被災した大学は経営難で廃校の危機にあった。
- 1954年12月に鳩山一郎内閣で通商産業大臣に就任。
- 1956年12月に総理大臣に就任。



学内での通産相就任祝賀会



中央が石橋。右が森嶋理事長（昭和電工社長）、左が齋藤栄三郎常務理事（NHK解説委員）。



1955年1月の学園新聞。「生産増強貿易振興、一方亦税の是正、完全雇用による国民生活の安定をやらなければならぬ」



学内での首相就任祝賀会



万歳は卒業生の寺尾豊参議院副議長、花束贈呈は立正学園女子高校（現文教大学付属高校）生徒か。



首相辞任と石橋書簡

・浜口首相遭難時（1931年）の石橋の主張

「浜口首相の遭難後、首相は意識を回復せられた際に、辞意を決し、辞表を奉呈すべきであった。しかるに、これを為さず、偷安姑息を貪ったために、ついに、この大国難の際に、我が政界を爾来見る如き無道、無議会の状態に陥れた。その第一責任者は、何といても、遭難直後において、挙措を誤った浜口首相に帰せねばならぬ。」（「近来の世相ただ事ならず」『石橋湛山評論集』岩波文庫）

・石橋書簡（1957年）

「私の政治的良心に従います。また万一にも政局不安が私の長期欠席のため生ずることがありましては、これはまた全く私の不本意とするところであります。私の総裁として、また首相としての念願と決意は、自民党にありましては党内融和と派閥解消であり、国会におきましては、国会の運営の正常化でありました。私の長期欠席が、この二大目的をかえって阻害いたしますことに相成りましては、私のよく耐えうるところではありません。」（『石橋湛山全集』第14巻）

1960年安保改定



6月15日の国会デモでは、デモ隊が国会構内に突入、警官隊との衝突の中で、東大生の樺美智子が死亡。美智子の父は、元立正大学文学部教授の社会学者・樺俊雄。上は、デモの様子と、石橋学長の言葉を伝える6月20日付の大学新聞。

「今度の場合は私自身も岸内閣に反対しています。先日も、すぐに辞職するように勧告しておりますが、それをいうことを聞かないから今度のようなことが起きたと思う。岸内閣は政争に外国の元首と日本の元首を巻き込んでいる。そして自分はこん龍〔衰竜？〕の袖に隠れてこん龍の袖を盾にして安全なところにいる。政争に陛下を利用しようとしている。だから諸君が憤慨しておるというのももっともだと思う。」

日中米ソ平和同盟構想

- 1961年頃から提唱。

「ことは、今日の世界において難事中の難事だと考えられる米国とソ連と中国を結びつけようという企てだから、たいがい人は聞いただけで逃げ出してしまう……どうしてこのようなことを考えたかという、一つは世界の平和という大きな観点からでもあるが、ほんとうは日本の実際問題として、対ソ連・中共外交に思いをめぐらした結果ここに到達したのである。これなくしては、北方領土の問題も、沖縄問題も片づかず、ソ連、中国との国交正常化もメドがつけられないと判断したからだ。」
（「佐藤首相訪米の成果を買う」1965年2月6日『石橋湛山全集』14巻）



石橋湛山から受け継がれるもの

- 現実と理想を橋渡しすること
経済状況と経済政策／国際関係と平和構想
- 健全な楽観主義
敗戦と将来構想／安全保障と同盟構想／（立正大学再建）
- 首尾一貫した態度
戦前と戦後の政治／引き受け方と引き際

